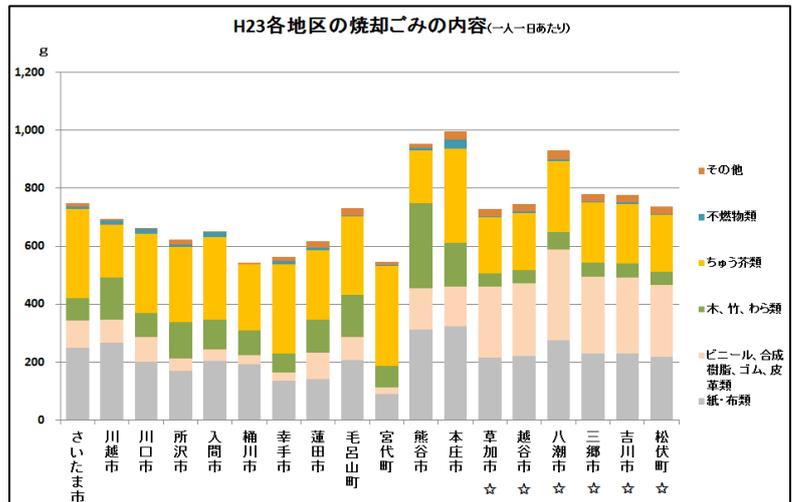


さらに、国で計算しているリサイクル率も比較的低い。(☆印)

ごみは分ければ資源になるので、もう少し分別する努力をすると全体的なごみ量も減る。また、焼却ごみの処理費用は燃やすごみが多ければそれだけ多くの費用が事務組合の方から請求されることになるので、費用に関しても少ない方が良く思う。

この焼却ごみの内容を詳しくみると、プラスチック類の量が大変に多い。焼却することによる二酸化炭素は多く出ていることになるので気をつけたい。

生ごみを燃やすにはプラスチック類が必要だとよくいわれるが、東埼玉資源環境組合の場合、生ごみの量はそれほど多くないし、紙類の中にも衣類の化学繊維などあるので、焼却に関しては、そこまでの心配はしなくて良いように思う。



また、軽いとは言ってもプラスチックをリサイクルすることでリサイクル率は確実に上がるので、頑張ってみてはどうだろうか？無理やり洗わなくてもきれいなプラスチックはたくさんある。

因みにペットボトルの回収は 98%の自治体で回収していたが、ペットボトル以外のプラスチックの回収をしている自治体も意外と多く約 60%の自治体が、何らかの形でプラスチックの回収をしていた。

ごみを分別して出すと言う事は市民にとって大変な事なので、自治体の方も収集の拠点や回数を増やしたり、事業所に協力して貰ったりして、焼却のごみにならないような工夫をする必要があると思う。また、市民も買い物に気をつけ、ごみになるようなものを買って来ないなど、安易に燃やすごみにしないような努力をすべきだと思う。

“ごみも減らせばゼロになる?!” ごみを知ろう委員会 上領 園子さん

なぜごみを減らす必要があるのかを知ってもらうことが大切と考え、資源が枯渇に向かっていることや、ごみが環境汚染を引き起こしていることと私たちの暮らしの中でほんの少しの手間や物の流れの仕組みを変えることでごみをゼロに近づけることができるのではないかという話を致しました。

平成23年版環境白書によると、私たちの暮らしを支えている石炭・石油・ガスを現在と同じように使い続けると50年から100年以内に使い切ってしまう金・銀・錫・鉛・亜鉛・クロムなどの主要金属は20年を割っていると出ています。このように残り少ない大切な資源を使って出来た製品をごみにしてならないとの考えから循環型社会形成推進基本法の元多くのリサイクル法が制定されています、加えてごみの量を減らそう・くり返し使おう・それでもいらなくなった物は資源にしようという意味のリデュース・リユース・リサイクルの頭文字をとった3R政策が行われ、国や県では推進に努めています。特に容器包装の削減に力を入れています、埼玉県ではスーパーマーケット等のレ



ジで渡すビニール袋の削減に店舗の協力を求めています。県民にはマイバック（エコバック）の利用を勧め、県では容器削減のため水筒を持参する「マイボトル運動」も行っています。エコ・リサもそれら県の活動に大きく協力しています。生活共同組合のなかにも容器は繰り返し使えるビンにし、ビニール袋は回収してリサイクルしているところもあります。古着についてもリサイクルよりもリユースされることが多く次に着るつもりでだし、安易に可燃ごみに出さないようにすべきでしょう。

焼却場からのデータによると燃えるごみの内水分量が約半分を占めています、これは主に生ごみに含まれた水分でこの水浸しの生ごみを燃やすために多くの資源が使われています。日本の食料自給率は40%前後であるにもかかわらず、1800万トンもの食料が捨てられています、一方では貧困率が上昇し約2000万人の人が食べるのに困って居り、既に餓死者も出ています。食料の生産に必要な肥料の3要素の内のリン酸・カリも3・4カ国の一部の地域にしか産出せず世界的に枯渇が心配されております。中国や米国はリン鉱石の輸出を禁じていますし価格は高騰しています。資源を使って水分を多く含んだ生ごみを燃やさずに土に返す取り組みが必要です。日本の先祖たちは落ち葉や糞便さえも土に返して来ましたから現在の土壌があります。既に、生ごみを直接土に埋めたり、コンポスト・ダンボール・発砲スチロール・木箱・プランター、バケツを使って家庭で燃やさず土に返す努力がされています。生ごみを集めて肥料化している自治体もいくつかあります。

ポイ捨てされたタバコの吸殻やビニール袋・漁業用具などが河川を汚し波にあらわれ細分化し海洋ではプランクトンと同等の小ささになり採取の結果その量はプランクトンの6倍にも達しており、有害化学物質が付着したまま魚の餌になっています。そのほかにも亀や鯨の屍骸の胃からビニール袋が多数出てきたりしています。また、ごみ減量の行動は二酸化炭素の削減に大きく寄与します。

日々の暮らしの中で本当に必要なものであるかを考えて購入することで随分ごみを減らすことができますと我が家の例を挙げ締めくくりました。

エコリサ 環境学習会に参加して

草加 町田 由美子さん

ごみの奥深い お・は・な・しとても興味深く拝聴しました。

私たちは草加市で買い物をする時ごみの発生抑制を視野に入れた生活を提唱してきました。20年以上前から、上質なパルプ 100%の紙パックを燃やしてしまうのはもったいないと紙パックの回収もしていますが、2011年から草加市の資源回収でも紙パックの回収を始めました。ところが、紙パックにはリサイクルマークが付いているだけなので、紙パックが回収されるからと、お菓子やティッシュの箱と一緒に出す人がいます。これではきちんとしたリサイクルは出来ないのです。市に混載はダメだと申し入れ、翌年きちんと分けるように知らせてもらいました。

ごみの発生抑制やリサイクルの質の向上を訴えなければ成果を上げることができません。循環型の社会の構築と言えは聞こえはよいのですが、一部の人が理解、活動する社会ではなく、共に暮らす大勢の人がきちんと分かり、活動する社会の実現を私たちと行政がともに考えることの大切さを学ばせていただきました。

【質疑応答・意見交換から】

Q: 越谷は、容器リサイクル法対象のその他プラスチックの回収をしていないが、取り組んでいる自治体のリサイクル率はどれくらい高くなっているのか？ 分別できた結果はどのような効果があるのか？

A: 容器対象のプラスチックを回収している自治体数は 29、その他のプラスチックを回収している自治体は 20、どちらも回収している自治体は 11 でした。反対に全く回収していない自治体は 25。ペットボトルと白色トレイの回収はカウントせずに容器とその他のプラスチックだけのリサイクル率を計算すると、埼玉全体でも 2%あがっています。自治体によっては 10%以上のリサイクル率を稼いでいるところもあります。リサイクル率は埼玉で一番高い所でも 40%には届いていませんので、軽いとはいってもかなりの重さになっているようです。因みにペットボトルの回収は 63 自治体のうち 62 自治体で取り組んでいました。プラスチックの焼却は炉も痛めますし、二酸化炭素の排出量も多いです。リサイクルしてアンモニアなどにする工場もあります。

ご意見: その他プラスチックを助燃材の意味で使うのは、生ごみを出し過ぎているため。石油資源に戻すことが可能なので、資源として活用すべき。